JAHFA JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME レポート

2011 AUTO SHANGHAI

世界が注目した
第十四届上海国際汽車工業展覧会

解説・藤本 彰

創新・未来 —— Innovation for Tomorrow

明快なテーマを掲げた第14回オート上海は４月19日のメディアデイから28日まで、上海市浦東（プドン）新区の新国際展覧中心（エクスポセンター）で開催された。ワールドプレミア75台を超える世界トップレベルの内容で、欧米から注目の新型車が持ち込まれるいっぽう、地元勢も独自のブランド開発とエコカーに力を入れていた。

以下ランダムに地元勢から。2010年８月にフォードからボルボ・ブランドを総額18億ドルで買い取った吉利汽車（Geely）は毎回コンセプトカーを多数出展して話題になる。今回はPHV（プラグイン・ハイブリッド）の４ドア・セダンを提案。EMGRANDシリーズの派生モデルEC７として設定、2012年には市販を予定している。

中国最古（1947年創業）の自動車整備会社からスタートした南京汽車（NAC）は2005年に経営破綻したMGの経営権を取得したが、2008年に上海汽車に買収された。その英国事業部門はNAC-MG-UKとして健在でMG TFを生産している。上海では５ドア・ボディのMG３を初公開。さらにコンセプトカーも出展した。

中国最初の自動車メーカーで政府要人向けの“紅旗”（ホンギ）を生産している第一汽車（FAW）はここ数年、大衆車の分野にも傾注し、スポーティな４ドアセダン“GO”を出展した。生産台数では３位。

生産台数首位を誇る上海汽車集団（SAIC）はVWと提携して上海大衆汽車を、GMと提携して上海通用を運営、テックセンター“PATAC”からビュイック・ブランドのコンセプト

Geely Emgrand EC7 Plug in Hybrid

NAC MG “MG3”

FAW GO

PATAC Buick Envision Concept

Dongfeng Nissan “Venucia”

Changan “VOSS”

Chery Riich G3

Great Wall HAVAL IF

BYD G6

カー、Envisionを提案した。

中国No.2の東風汽車（ドンフェン）は日産とPSA-プジョー・シトロエンが提携している。東風日産の新ブランド“Venucia”（ヴェヌーシア）を公開、2012年から販売する予定。

安徽省蕪湖（ウーフー）市を大株主とする奇瑞汽車（Chery）は創業以来の国際指向が功を奏して中国車で最も輸出台数の多い企業の一つ。PHVの５人乗りセダン“Ｇ３”とライトSUVの“Ｘ５”を公開した。

中国カーメーカーのN0.4、長安汽車（Changan）は横浜の長安日本設計センターでデザインされたMPVコンセプト“VOSS”を出展した。このメーカーはトリノにも80名を擁するデザイン開発拠点を持っている。

長城汽車（Great Wall）は1984年に香港の証券市場で17億香港ドルの投資によって設立された中国初の民間自動車会社。河北省保定（バオディン）市を主な生産拠点とするが、ウクライナやロシアにも工場を展開中。新作Haval IFはBMWもどきのワゴンに近いクロスオーバーSUV。1/3を輸出で稼いでいるが、多くの製品が海外ブランドに酷似しているのが最大の弱点。

電池メーカーとして知られる比亜迪（BYD）は上級セダンF６の新型Ｇ６とコンパクトEVを出展していた他にも多くの中国企業が新型車を発表したが紙数の都合で割愛する。

このショーで注目すべきは欧米の自動車メーカー各社が話題作の初公開の場を上海と定めたことである。ダイムラーベンツはAクラス、BMWは６シリーズ・クーペとＭ５コンセプト、アウディはＱ３とＡ３e-トロン、VWは第２世代ビートルを、シトロエンはDS５、プジョーは508とSXCコンセプト（SUV）をそれぞれ披露した。GMは４月23日からのNYオートショーに先立ってシボレー・マリブを発表、中国市場を最も重視しているとアピールした。

現代・起亞グループは中型セダン「アゼーラ」と新型エラントラ、中国専用デザインのＫ２を出展。新作の少ない日本勢の中では日産がティーダの中国版新世代を初公開、スバルはインプレッサのクロスオーバーコンセプト“XV”を新築された北ホールのハイエンドなスーパーカーの一群の中に混じって発表した。ワールドプレミアのないトヨタは50車種に及ぶ製品を並べて豊田章夫社長がスピーチ。得意のミュージシャン・ロボットや一輪車で観衆を愉しませていた。ホンダ、マツダ、三菱ともに新作はなかった。

中国人が好む車の傾向は、元気のよい若者は千差万別だが、見栄えがよく後席居住空間の比較的大きな車が概して好まれる。ファミリーカーも含めて年々大型化しつつあり、サイズ的にアメリカとドイツは自国の傾向と大差あるまいが、他のヨーロッパ勢と日本車はアメリカ仕様でまかなうことになりそうだ。「中国のトレンドが世界を支配する」とGM首脳部が語ったこともあり、中国での日本車の優位点をどこに求めるかが大きな課題である。

急成長を続ける中国自動車産業

前回より10万人上回る71万5000人の観客を動員して閉幕した第14回オート上海。1985年に発足し、北京のオートチャイナと隔年で開催され、毎回規模を拡大してきた。前回より35%も拡張された23万平米の展示スペースに今回は20ヵ国・地域からの参加企業2000社に達し、屋外展示の大型車両を含めて輸入車約200台、国産車約900台が出展された。

Mercedes-Benz Concept A-Class

BMW 6-Series Coupe

Audi Q3

Volkswagen Beetle

Peugeot SXC

Hyundai Azera

Nissan Tiida

Citroën DS5

Chevrolet Malibu

Kia K2

Subaru XV Concept